

【発表 NO.23】

実践発表

言語活動を中心にした高校 JSL 国語科の試み
 — わたしだけの「うつくしさ」を表現する活動を通して —

坂本めぐみ・坂本昌代（東京都立一橋高等学校）

1. 実践の場の状況

1-1. 本校の特徴

本校は三部制の定時制高校である。今年度より「在京外国人生徒等」対象選抜の特別枠校となったことで外国につながる生徒は増加傾向にある。今年度新入生の約4分の1が日本語指導を必要とする生徒で、中国、フィリピン、ネパールなど出身国や母語は様々である。

日本語指導が必要な生徒への支援として、学校設定科目や特別の教育課程による日本語指導のほか、国語科の必修科目である「現代の国語」「言語文化」で取り出し指導が行われており、発表者は講師として「現代の国語」取り出しクラスを担当している。（表①）

表①「現代の国語」取り出し対象生徒数（令和8年入学時）

	I部（午前部）			II部（午後部）		
年・組	1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	1-6
生徒数	29(11)	28(8)	30(10)	30(5)	30(6)	30(6)

（ ）は日本語指導が必要な生徒

取り出し

19人 10人

10人 6人

太枠は発表者の担当クラス

1-2. 日本語指導が必要な生徒について

生徒の来日時期は様々で、日本語の力もサバイバルレベルから日常生活に不自由のない生徒まで幅が大きい。日本語以外の言語では自由に意見を述べたり書いたりできる一方、日本語での発表や作文は苦手とする生徒がほとんどである。体系的に日本語文法を習ったことがある生徒は、入学前に学校内や地域の日本語教室に通っていた生徒や、来日前に独学してきた生徒などごく一部で、今回の実践でカギになる文法「形容詞の名詞化」や「連体修飾」についても、多くの生徒が「知らない」「なんとなく話せるし聞けばわかるが書けない（普通体等を誤る）」状態である。

2. 実践の目標

本校の取り出しクラスでは取り扱い単元の指定がある。高校国語科の教材は日本語のハードルが高く、読解、つまり単語の意味確認や文法の拡充、内容理解に終始してしまいがちな点が課題意識としてあった。

そこで授業展開の軸を言語活動に据え、「わたしだけの『うつくしさ』」というテーマに沿って、読解した内容をベースに、本文中に習った文法を使って、自分の美的感覚や情景を他者に伝えるよう日本語で表現し、また他者の作品を読んで感想を伝えあうことを目標にする。随筆・評論の読解、詩の鑑賞、文法の学習が言語活動の短作文というアウトプットによって一体化する授業構成である。言語活動に焦点を置く授業展開によって日本語の習熟を促し、「読むこと」のみに留まらない国語科の学びを目指す。

3. 実践の内容と手立て

1回45分の全12回。（表②参照）指定教材である評論『美しさの発見』に加え、多様な美的感覚をテーマにした随筆『黄金の扇風機』、身近な風景や日常生活の美しさの発見をテーマにした詩『世界はうつくしいと』を扱う。随筆と評論は、主題を損なわない程度に本文をA4用紙2枚に収まる長さに抜粋・要約し、かつ日本語をやさしくリライトしたものを使用する。

生徒には導入として「うつくしさ」をテーマにいくつかの読解をし、最終的に「うつくしさ」をテーマにした作品づくり（短作文）をすることを伝えておく。

読解、文法の学習、詩の鑑賞を経て、最後に言語活動として「わたしだけの『うつくしさ』」をテーマに「（修飾節）【N】はうつくしい」の型に沿った作文を行う。読解の内容をふまえ、誰にでもうつくしいと思われそうな情景よりも、自分の身近なものや独自の感覚から題材を取るよう促す。関連する写真を Teams 上で共有し、その情景を日本語で書いて表現する。生徒同士で作品を読みあい、感想を伝えあう活動も行う。

表② 授業展開

時数	教材	内容
1～3	随筆『黄金の扇風機』リライト教材（1195字） ワークシート1枚	読解 「何を美しいと感じるかは、民族や文化・地域によっても（中略）違う」 ¹⁾
4	文法 形容詞の名詞化 ワークシート1枚	美しい→美しさの変換とその例文
5～8	評論『美しさの発見』リライト教材（1320字） ワークシート1枚	読解 「「美しさ」は草花や山といった対象にあるのではなく、それを「美しい」と感じる人間の心のほうにある」 ²⁾
9	詩『世界はうつくしいと』 文法 名詞修飾節 ワークシート1枚	『～【N】はうつくしい』の文型とその情景の読み取り、連体修飾の構造、普通体の確認
10～12	言語活動「わたしだけの『うつくしさ』」	『～【N】はうつくしい』の型に沿って作文。（あれば）写真共有。作品の読みあい。

1) 田中 p94 より引用 2) 高階 p147 より引用

4. 結果と考察

今回は「うつくしさ」をテーマにした短作文という言語活動を主軸にして、同様のテーマの教材をあえて複数用意した。どれも大幅にリライトしたものであるが、やや平易な随筆を先に読むことで、本来の単元である評論の理解への足掛かりができた。「なんで？ 金の扇風機ほしいじゃん」という声が出る場面もあり、「そういう一人ひとりの『うつくしさの感覚』を大事にしたいよね」と拾って、生徒が自分の中の「うつくしさ」と向き合う下地ができた。

「～【N】はうつくしい」という文の連なりからなる詩の鑑賞は、文法項目として扱った連体修飾の例文のインプットとしても機能し、生徒に作文のイメージをもたせるのに役立った。

言語活動では、例えば「さくらの花はうつくしい」を「雨がふるときのさくらの花はうつくしい」にするなど、学習した文法を使って表現を広げる様子や、自分の趣味について「スケボーのわぎをメイクする時はうつくしい」と表現するなど、思い描く情景について友達に口頭で説明しながら語彙選びを工夫する様子などが見られた。読解と文法学習をアウトプットに活かす流れを作ることによって、学習全体への動機づけが強まった。また、タスクベース的に日本語の習熟を促しつつ、「読むこと」に終始しない国語科の学びができたと思われる。

【使用教材および引用元】

高階秀爾「美しさの発見」『新編現代の国語』東京書籍(2021 検定済) p142-149

田中真知「黄金の扇風機」『新編新しい国語2』東京書籍(2020 検定済) p94-97

長田弘「世界はうつくしいと」『国語3』（2020 検定済）光村図書 p0(表紙裏)-1